

## Bionic Jack Racing FIA-F4 レースレポート



**BIONIC JACK RACING**

🇯🇵 **RYUNOSUKE SAWA**



**COMTEC**  
COMMUNICATE TECHNOLOGY



**Tousou**  
Planning Service



**BIONIC JACK RACING**

🇯🇵 **IKARI**



**COMTEC**  
COMMUNICATE TECHNOLOGY



**JSS**  
**S-FJ SCHOLARSHIP**

【FIA-F4 選手権シリーズ第4戦・第5戦・第6戦】

鈴鹿サーキット（三重県：5.807km）

10月24日（土）予選、決勝レース第4戦&第5戦：晴れ／ドライ 入場者数：9,500人

10月25日（日）決勝第6戦：晴れ／ドライ 入場者数：19,000人

97 澤 龍之介 BJ Racing スカラシップ JSS

98 IKARI BJ Racing F110

澤龍之介が第4戦、第6戦をともに8位で入賞果たす

IKARI は第4戦でインディペンデントカップ3位、表彰台へ！



FIA-F4 選手権シリーズに、高木真一監督が指揮を執る、Bionick Jack Racing は引き続き2名のドライバーを走らせる。「98 BJ Racing F110」を駆る IKARI はインディペンデントカップにも挑む、FIA-F4 フル参戦3年目のドライバー。そして、「97 BJ Racing スカラシップ JSS」を駆る、新加入の澤龍之介はスーパーFJ からステップアップしてきたドライバーで、ジャパンスカラシップシステム（JSS）のサポートも受けての参戦となる。

富士で行われた第1大会では IKARI が第2戦で一時インディペンデントカップのトップを走り、3戦とも入賞。そしてデビュー大会となった澤も、徐々に調子を上げて第3戦では5位になるなど、まずまずの滑り出しを見せていた。

10月24～25日に行われる第2大会の舞台、鈴鹿サーキットはふたりにとって走り慣れたコースであるとともに、特に澤は昨年のスーパーFJ 鈴鹿シリーズチャンピオン。経験を大いに活かしてくれることが期待された。

#### 予選

97 澤 龍之介 BJ Racing スカラシップ JSS : 13 番手・17 番手

98 IKARI BJ Racing F110 : インディペンデントカップ 6 番手 / 27 番手・IC5 番手 / 26 番手

木曜日、金曜日に行われた練習走行は4セッション中3セッションが雨に見舞われたものの、土曜日からは一転、天候に恵まれることとなり、どうやら雨の心配はせずに済みそうだ。もっとも IKARI は、インディペンデントカップのドライバーで唯一、4セッションすべて走行。どんなコンディションでも対応できるよう、体制を整えていたのは評価すべきポイントだ。

予選は通常どおり、土曜日の早朝に30分間の計測で行われた。澤は計測開始と同時にコースインし、そのまま周回を重ねていく。計測2周目に1分10秒059を記録し、1周のクールダウンを挟んで、次の周には1分9秒600をマーク。そのままタイムを短縮していくことが期待された。だが、その直後にS字、130Rでコースアウトが相次いで赤旗が。残り8分間で計測は再開されたが、熱の冷めたタイヤではタイムアップはかなわず。そのため、澤は13番手、17番手という結果に甘んじてしまう。

一方、IKARI はタイヤ温存のため、コースインからすぐピットに戻って待機するも、これが赤旗中断のため裏目に。再開後のアタックで1分11秒843、1分12秒199を絞り出すも、インディペンデントカップの6番手、5番手につけるのが精いっぱいだった。

#### 澤龍之介

「赤旗が出るまでは、けっこう頑張っていたんですが……。途中でセットを変えたんですが、いい方向には行かず、最後のアタックではガス欠になってしまって。うまくいきませんでした」

#### IKARI

「すぐピットに入ったのは、タイヤを使いたくなかったんです。赤旗出たらやばいなと思っていたら、出ちゃって（苦笑）。再開後に頑張ったんですが、ダメでした。決勝では前を狙って隙あらば。何が起こるか分かりませんが、自分の中に入らないよう、気をつけて走ります」



## 決勝レース第4戦

97 澤 龍之介 BJ Racing スカラシップ JSS：8位

98 IKARI BJ Racing F110：インディペンデントカップ 3位／23位

レースウィーク最初の決勝レースは、またしても波乱の幕開けとなってしまふ。オープニングラップのシケインで、インディペンデントカップの上位陣にアクシデントが発生。しかし、これはIKARIにとって吉と出る。巧みに回避できたからだ。その直後にセーフティカー（SC）が導入されるも、リスタートから2周後に2台を相次いでかわして、4番手に浮上。さらに7周目には3番手に躍り出る。

先のアクシデントで周回遅れになった、チャンピオン経験のあるドライバーを背後に置いて、一歩も引くことなかったIKARIは、今季初の表彰台に上ることとなった。

一方、澤は絶妙のスタートを決め、1コーナーには9番手で飛び込むことに成功。4周目のリスタート後も、しっかりバトルを重ね、7周目にはひとつポジションをアップ。前と後ろを抱え込まれた状態ではあったものの、最後までプレッシャーに屈することなく、そのまま8位でゴールすることとなった。



### 澤龍之介

「スタートが決まって、1コーナーまでに3、4台抜けました。マシンのセットはだいぶ変えて、良くなっていましたし、バトルもしっかりできたので、ポジティブな内容のレースだったと思います。何よりポイントが獲得できたので、良かったです！」

### IKARI

「シケインでぶつかりそうになって、ピットレーンの方まで逃げて。ただ、クルマは予選ではド・アンダーで曲がらなかったんですけど、決勝はやりすぎてオーバーがきつくなってしまいました。次はちょうど間を取っていけば、まともにタイム出せると思います。3番手に立てたのはスプーンです。その前のヘアピンで開けてくれたのかと思ったら、そうじゃなかった。でも、並んでいってインから入って抜くことができました。楽しいレースでしたよ！」



## 決勝レース第5戦

97 澤 龍之介 BJ Racing スカラシップ JSS：リタイア

98 IKARI BJ Racing F110：インディペンデントカップ 6位/24位

どうにも今シーズンの FIA-F4 は荒れ模様。しかも災難は澤にも訪れた。オープニングラップの S 字でコントロールを失った車両がコースを横断。縁石で宙を舞うほどのアクシデントに、澤は巻き込まれてリタイアを喫してしまったからだ。幸い、澤を含むドライバーたちに怪我がなかったのは何よりではあった。これによる SC 旗は、即座に赤旗に切り替えられてレースは中断。

11 周もしくは 30 分間という特別規則により、SC スタートにより再開された時点で、残り時間はごくわずか。結局、SC 2 周の先導のうちに時間が尽きて、チェッカーが振られることになった。IKARI はスタートで 1 台の先行を許していたため、インディペンデントカップで 6 位となった。

## 澤龍之介

「スタートは問題なく、普通に切ったんですけど、完全にもらい事故という感じでした。幸いマシンのダメージは少ないようですし、明日は 9 番手からのスタートなので、最低でもポイント獲得といきます」

## IKARI

「すいません、スタートで落としちゃって。ダメですね。その後、一台、宙を待っていました。僕は全然問題なかったんですが、澤くんが引っかかっているからいいなど。でも、砂煙で何も見えず、後から澤くんが当てられたのを知りました。しょうがない、レースですから。明日も同じ 5 番手からのスタートなので、頑張ります」

## 決勝レース第6戦

97 澤 龍之介 BJ Racing スカラシップ JSS：8位

98 IKARI BJ Racing F110：インディペンデントカップ 4位/23位

第4戦で記したベストタイムにより、澤は9番手から、そして IKARI はインディペンデントカップ 5 番手からスタートを切ることになった第6戦。無難なスタートを切った澤は、まずはポジションキープでレースを開始する。2 周目のストレートで 1 台の先行を許すが、その周に前をいく 2 台が、相次いでコースアウトしたこともあって 8 番手に。その後も後続から激しく攻められるも、最後まで冷静に対処して逆転を許さず。その結果、第4戦に続く 8 位入賞を果たすこととなった。

一方、IKARI はスタートでまず 1 台を抜き、3 周目には 3 番手に浮上。その後、トップに対し、スタート違反によるドライビングスルーペナルティが課せられたため、8 周目に 2 番手に上がるも、シケインで 3 番手に後退。再逆転を狙い、最終ラップのシケインで勝負をかけるも、止まりきれず。その脇を 1 台がすり抜けていき、あと一步のところまで表彰台を逃していた。



次回のレースは 11 月 7～8日にツインリンクもてぎで開催される。わずか2週間のインターバルとあって、今回つかんだ好印象はきっと反映されるはず。澤と IKARI の活躍に期待したい。

#### 澤龍之介

「スタートは良くも悪くもなく、普通に切れて良かったんですけど、そこからのストレートスピードだったり、マシンのバランスだったり、ちょっとうまくいなくて苦戦しました。後ろを抑えるのに精一杯でした。次はもてぎなので、もっと頑張ります」

#### IKARI

「齋藤選手にシケインで行かれちゃって、抜き返せばいいやって思っていたんですが、彼もなかなか速くって。それでも最終ラップ、スプーンの出口で追いついて 130R をびったり着いて走って、最後のシケインでインを刺そうと思ったら、当然インを押さえてきて。アウトから並んでいったら止まり切れず、その脇をさ～っとすり抜けられてしまいました。もったいなかったですが、行けるチャンスがあったから行ったけど、コントロールできなかったのは、チームの皆さんに申し訳なく思います。次のもてぎでは全部表彰台に上がるつもりで頑張ります」

